

解答速報

関西医科大学 英語

2019年1月26日実施

I	1	ウ	2	エ	3	ウ	4	ア	5	イ
	6	ウ	7	ア	8	エ	9	ア	10	イ

II	1	イ	2	エ	3	イ	4	エ	5	ア
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

III	(1)	appreciate	(2)	while	(3)	keep
	(4)	mention	(5)	chill	(6)	on
	(7)	pain	(8)	heart	(9)	deal
	(10)	tongue				

IV	1	①	soaked	②	sought	③	performing
		⑤	creating	⑨	added		
	2	④	溶液				
	3	⑦	use	⑩	are		
	4	⑧	two				
	5	⑥	for	⑪	of	⑫	and
		⑬	did	⑭	that	⑮	to

V	1	①	O	②	X	③	O	④	O	
		⑤	O	⑥	X	⑦	X			
2	(i)	ウ	(ii)	エ	(iii)	ア	(iv)	ア	(v)	エ
	(vi)	ウ								
3	memory									
4	to									

I

- 1 circus [sɔ:kəs] : ウ starve [stá:rv] は, [ɔ:] を含まない。
2 wool [wúl] : エ bloom [blú:m] は, [ú] を含まない。
3 roast [ró:st] : ウ abroad [əbrɔ:d] は, [óu] を含まない。
4 reference [réfərəns] : ア reserve [rizó:rv] は, [é] を含まない。
5 meant [mént] : イ treat [trít] は, [é] を含まない。
- 6 anxious [éŋkjəs] : ウ salmon [sæmən] の強勢は[æ]
ア appalling [əpó:liŋ] イ chamber [tʃéimbə] エ salt [só:lt]
7 seize [sí:z] : ア creature [krí:tʃə] の強勢は[i]
イ failure [féiljə] ウ gale [géil] エ rein [réin]
8 triumphant [traíʌmfənt] : エ discovery [diskʌvəri] の強勢は[ʌ]
ア curiosity [kjùəriósəti] イ trial [trá:əl] ウ infancy [ínfənsi]
9 jealous [dʒéləs] : ア genuine [dʒénjum] の強勢は[é]
イ heal [hí:l] ウ kneel [ní:l] エ treat [trít]
10 continuity [kəntənjú:əti] : イ numerous [njú:mərəs] の強勢は[ú]
ア currency [kérənsi] ウ contribute [kəntríbju:t] エ interesting [íntərəstɪŋ]

II

(1) イ 試しに食べに行ってみませんか。

「町に新しい中華レストランができたの。試しに食べに行かない？」

“Why don't we ~?” は誘い掛ける表現。“try out ~” で「~を試しに食べてみる」という意味。

(2) エ それだけは勘弁してください。

「それだけは勘弁してよ, Jenny. 中華料理は脂が多すぎるからね。僕はダイエットをやり遂げたいんだ。」

“anything but ~” で「~のほかは何でも、決して~ではない」の意味。“anything but that” で「それだけは勘弁してください」という意味。

(3) イ 一日ダイエットを休んでも死にはしない。

「中華料理は本当においしいよ。でもどうしてもダイエットをやり遂げたいんだ。日本食はどうかな。」

「ねえ、一日くらいダイエットを休んでも死ぬわけじゃないのよ。」

(4) エ ダイエットをやり遂げた人は一人もいない。

「Taro, ダイエットをやり遂げた人はいないのよ。あなたがあきらめるのも時間の問題でしかないの。だから今やめない？」

“stick to ~” は「~にこだわる, ~に固執する」という意味。

(5) ア もし今それを使わなかったら, それを捨てるのも同然です。

「私はこの中華料理店の開店記念クーポンを手に入れたの。一人分の料金で二人分食べられるのよ！それに有効期限が今夜までなのよ！もし今使わなかったら捨てるのも同然なのよ。」

“might as well ~” で「~するのも同然」という意味。

III

- (1) ・ I really appreciate it. 「本当に有り難く思います／本当に感謝します」
・ appreciate the true value of ~ 「~の本当の価値が分かる」

- (2) ・ It's been a while. 「お久しぶりですね」
・ Strike while the iron is hot. 「鉄は熱いうちに打て」

- (3) ・ Let's keep in touch. 「連絡を絶やさないようにしましょう」
 ・ keep in mind 「忘れないでおく／覚えておく」
- (4) ・ Don't mention it. 「お礼なんていいよ／どういたしまして」
 ・ not to mention ~ 「～は言うまでもなく／～は勿論のこと」
- (5) ・ Chill out and relax. 「気を楽しませてゆったりくつろごう」
 ・ catch a chill 「風邪をひく」
- (6) ・ It's on me. 「私のおごりです／自分が持つよ」
 ・ on medication 「薬物治療中で／投薬されて」
- (7) ・ pain in the neck 「頭痛の種／腹立たしいもの／面倒くさいこと」
 ・ pain reliever 「痛み止め／鎮痛剤」
- (8) ・ from the bottom of one's heart 「心の底から／心を込めて」
 ・ die of a heart attack 「心臓発作で死ぬ」
- (9) ・ It's a deal. 「決まりだね／いいとも／それで結構です／商談成立ですね」
 ・ deal with ~ 「～に対処する／～を処理する」
- (10) ・ watch one's tongue 「言葉遣いに注意する／言葉に気を付ける」
 ・ one's mother tongue 「母語」

IV

1 [動詞の変化]

- ①： 第1段落前半 “From the crushed leeches (①:soak) in vinegar to ~”
 From の目的語は the crushed leeches 「押しつぶされたヒル」。(①:soak) in vinegar は leeches を修飾している形容詞句。「酢に浸された」と考える。答えは “soaked”
- ②： 第1段落後半 “~, fashionable humans have (②:seek) ways to dye their hair for thousands of years.”
 「何千年もの間」とあるので、現在完了形と考える。答えは “sought”
- ③： 第2段落 “~ a messy, stinky process, which researcher Jiaying Huang, ~ ,compares to (③:perform) organic chemical synthesis ~”
 関係代名詞 which の先行詞は process であり、この関係節を元の文に戻すと researcher Jiaying Huang, ~ , compares the process to (③:perform) organic chemical synthesis ~ となり compare A to B 「AをBと同等とみなす」という構造が読み取れる。
 (③:perform) organic chemical synthesis は「有機合成を行うこと」という意味。答えは “performing”
- ⑤： 第4段落第2文 “They reported (⑤:create) a natural-looking black hair shade ~”
 (⑤:create) a natural-looking black hair shade を reported の目的語と捉える。
 意味は「自然に見える黒髪の色合いを作り出すこと」。答えは “creating”
- ⑨： 第8段落第5文 “An (⑨:add) advantage is the elimination of ~”
 意味は「付け加えられた利点は ~ を取り除くことである」。答えは “added”

2 [部分訳]

- ④： “~, the researchers coated hair with a graphene solution ~”
 「(研究者たちは髪の毛をグラフェン) 溶液 (を用いてコーティングした)」という意味。

3 [文中語句整序]

⑦ : [all / anymore / dyes / hair / not / peroxide / use], but the core chemistry is generally the same, ~
dye は名詞/動詞どちらの用法もある。dye を動詞と考えると, hair dyes 「髪が染まる」, peroxide dyes hair 「過酸化物が髪を染める」が想定されるが, use の使い道がなくなる。よって use を動詞と考え, hair dyes use peroxide 「髪染めには過酸化物が使用される」を基本構造と想定する。anymore は否定文で「今ではもう~」という意味になる, 時を表す副詞なので末尾に置く。あとは部分否定の not all を主語に付け加えれば, but 以降の文脈にも合った文が出来上がる。
解答は, “Not all hair dyes use peroxide anymore, but ~”

⑩ : The Food and Drug Administration reports that two ingredients that were found to cause cancer in [animals / are / hair dyes / in / longer / no / used].
in の目的語となる名詞は animals。 “to cause cancer in animals” は「動物においてガンの原因となる」。reports の目的語となる that 節の主語が two ingredients that were~in animals で「~とわかった2種の原料はもはや髪染めには使われていない」という構造と想定する。no longer は「もはや~ない」という否定の意味の副詞句なので, not と同じ位置, つまり are の直後に置く。
解答は, “~ reports that two ingredients that were found to cause cancer in animals are no longer used in hair dyes.”

4 [空所補充: 選択肢無し]

⑧ : 第8段落第1文をよく見ると, “Graphene is a (⑧)-dimensional **sheetlike** material made of a **single atomic layer** of carbon.” とあり, 炭素原子一つ分の層から成るシート状の素材であることから, 厚さをほとんど持たないことがわかる。よって “two” を入れ「二次元の」とする。

5 [同一語空所補充] (英文に対する ___ は主語, ___ は動詞, _____ は目的語, < > は副詞要素を表す。)

⑥ : “The new method stayed on after 30 washings, the number necessary (⑥) a hair dye to be considered permanent.”
30 washing と the number が同格であり, necessary 以下が the number を修飾している。necessary for A to do で「A が~するのに必要」となるので, 不定詞の意味上の主語を表すために(⑥)には “for” を入れる。

⑪ : 二つ目の空所から考えるのが良い。

“The total retail sales (⑪) at-home hair coloring products in the United States in 2016 was \$1.9 billion, ~”
was の位置から, それ以前が長大な主語とわかる。sales と products という名詞をつなぐには (⑪) に “of” を入れれば良い。一つ目の空所で確かめてみよう。

“But there are thousands of different chemicals in use, and (⑪) these, many have not been studied <either alone or in combination with others>.”

“of” を入れると, 「これらのうち, 単独であれ他のものとの組み合わせであれ, 研究されていないものがたくさんある」となり, 通じる。

⑫ : “We do not have reliable evidence showing a link between cancer (⑫) coal-tar hair dyes on the market today.”
between の後ろの cancer が単数形なので “and” が必要となる。「ガンとこの頃市場に出回っているコーラル入り髪染めとのつながり」となる。

⑬ : “<In a combined analysis of 4,461 women who had non-Hodgkin’s lymphoma, and 5,799 women who (⑬) not>, ~”
非ホジキンリンパ腫がある人とない人を比較したい。動詞 had の重複を避けるために代動詞 “did” を入れる。not の後ろでは non-Hodgkin’s lymphoma が省略されている。

⑭ : “~, or the fact (⑭) those who began using them after 1980 reflected lower cumulative exposure.”
(⑭)の後ろに完全文が来ていることから the fact に対する同格の名詞節を導く “that” が入る。

⑮ : “<After I looked into this problem> I realizes there is a significant demand for people to dye their hair black or close (⑮) black.”
dye OC で「O を C に染める」を意味し、等位接続詞の or が 2つの C をつないでいる。あとは close とのコロケーションから “to” を入れる。

V

1 [内容一致・不一致問題]

- (1) 「脳インプラントは、脳損傷に苦しむ兵士だけに用いられるわけではない」。第4段落第3文にあるように、脳インプラントはアルツハイマー病などの認知障害や、老化による知力低下にも用いられるので、この文内容は正しい。
- (2) 「ウィリアム・ハウス医師が最初に、内耳インプラントによる聴力障害者を救う方法を開発したとき、彼の同僚の多くは、彼の考えを賞賛した」。第6段落第2文に、ウィリアム・ハウス医師の同僚は彼の考えを「ばかげている」(absurd) と考えたとあるので、この文内容は誤りである。
- (3) 「手足の震えとこわばりが、パーキンソン病の主な特徴である」。第7段落第2文に、パーキンソン病の「顕著な特徴」(hallmark) として「震え」(tremors) と「硬直性」(rigidity) が挙げられているので、この文内容は正しい。
- (4) 「マイケル・カハナ医師によれば、仮に60歳の人の記憶力テストの成績が15%上昇するとすれば、それは、その60歳の人が42歳の人の記憶力を取り戻すようなものである」。第12段落第2文では、マイケル・カハナ医師が、この15%は脳年齢の18歳分に相当し、それは43歳の人の記憶力を、その人の25歳の時の記憶力に戻すようなものだと述べているので、この文内容は正しい。
- (5) 「本文によれば、信号を被験者の海馬に直接送ることで被験者の記憶を操作することにすでに成功した研究者もいる」。第14段落第2文では、ハンブソン医師とその同僚が、海馬に直接アプローチすることで20人の被験者の記憶を操作したとあるので、この文内容は正しい。
- (6) 「刺激装置と制御装置を含めて完全に皮下に移植可能な、記憶力を増強するインプラントは、心臓のペースメーカーに似ており、すでに市場に出ている」。第18段落第2-3文には、複数の学者のグループやベンチャー企業が、心臓のペースメーカーに類似した、脳のビックデータを扱うことのできる刺激装置を「開発しようと競っている」(... are racing to develop) とあり、「すでに市場に出ている」わけではないので、この文内容は誤りである。
- (7) 「記憶力を増強するインプラントを使用できない者に対して近い将来起こりうる差別を予防する対策がすでに講じられている」。第21段落第1文では、記憶力を増強した人とそうでない人の二つの階級が生じる可能性について述べられているが、第21段落第4文では、その問題に直接直面する可能性があるのは自分の子供の世代だろうと述べられているので、この文内容は誤りである。

2 [語義選択]

- (i) ウ : baseless
idle (たわいもない, 根拠のない)に対応するのは baseless (事実無根の)
- (ii) エ : exaggerated claims
hype (誇大宣伝, いんちき)に対応するのは exaggerated claims (誇張された主張)
- (iii) ア : motivation
momentum (推進力)に対応するのは motivation (動機, 意欲)
- (iv) ア : avoid
sidestep (～を避ける, 回避する)に対応するのは avoid (～を避ける)
- (v) エ : brave and shocking
audacious (大胆な)に対応するのは brave and shocking (勇敢で衝撃的な)

(vi) ウ : artificial organs

prostheses (人工的補充物)に対応するのは artificial organs(人工器官)

3 [語句の言い換え]

下線部 the big data of the human brain(人間の脳のビックデータ)の言い換えは memory (記憶)

4 [空所補充問題]

空所(5) では not only to do ... but also ... という構造から, but also の後ろにも to do ~ が続くと想定できる。さらに空所(7) に to を入れてみると allow O to do ... となり, 間違いないことがわかる。

講評

- I [発音・アクセント] (標準) 前半は発音問題。後半は発音・アクセント融合問題。基本的な問題が多い。
- II [会話] (標準) 内容は平易だが, 選択肢に紛らわしい表現を含む設問もある。
- III [2文共通語] (標準) 難しい問題も含まれるが, 標準的な問題が多い。
- IV [長文] (標準) 話題は「完璧な髪染めについて」。以前にも出題されていた動詞の活用変化が出題された。難易度は例年並み。
- V [長文] (標準) 話題は「記憶力を増幅させる脳インプラントについて」。同義語問題は新たに出題された形式。内容一致問題は例年並み。

昨年度から大問が一つ増えたが, 全体の分量及び難易度は昨年並み。目標は 70%